

中ロ経済協力の現状と今後の課題

黒龍江省社会科学院ロシア研究所副研究員
封安全

はじめに

中ロ両国は相互にとって重要な隣国である。近年、両国の政治関係の緊密化により経済協力がますます強化されている。現在、中国はロシアの最大の貿易相手国であり、ロシアは中国の石油と木材の主要な輸入先である。ウクライナ危機以来、欧米諸国の経済制裁とルーブルの引き下げによりロシア経済は苦境に陥り、中ロ貿易に悪影響を与えたが、協力関係は深化し続けている。本稿では、中ロ経済協力の現状を整理した上で、中ロ経済協力に存在する問題を分析し、その発展を展望する。

1. 中ロ貿易の動向

1.1 中ロ貿易の現状

1991年のソ連崩壊から2016年までに、中ロ経済協力は大きく進展した。図1からわかるように、1990年代、中ロ貿易の成長は緩やかに発展し、貿易額は60億～70億ドル前後を維持していた。2000年から2008年まで、中ロ貿易は急速に発展して、2008年に560億ドルに達した。この間、1998年に金融危機が発生したが、中ロ貿易への影響はあまりなかった。2008年の経済危機により2009年の中ロ貿易は380億ドルに下落したが、2010年に回復し、2014年はピークに達した。しかし、2014年、ウクライナ危機によりアメリカをはじめ西方諸国はロシアに制裁を科したため、中ロ貿易も影響を受け、2015年の貿易額は635億ドルにとどまり、2014年に比べて3割減少した。2016年、ロシア対外貿易額は4677億ドル、2015年と比べて11.1%減少したが、中ロ貿易額は695億ドルで、前年と比べて9.4%増加している。

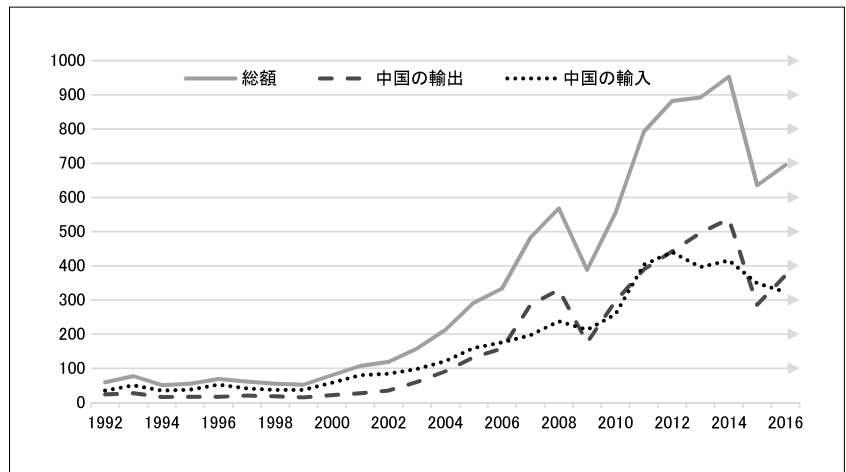
1.2 中ロ貿易の商品構成の変化

中ロ貿易の発展に伴い、その商品構成

も大きく変わっている。中国の税関統計によると、2001年のロシアからの輸入商品は主に機械・運送機械、化学製品、金属及びその製品、木材及び木材製品、鉱物燃料、農産品などであった。その中で、機械・運送機械の比率が28.7%を占め、最も大きい。次に金属及びその製品が20.1%、化学製品16.6%、木材及びその製品13.4%となっている。2015年中国

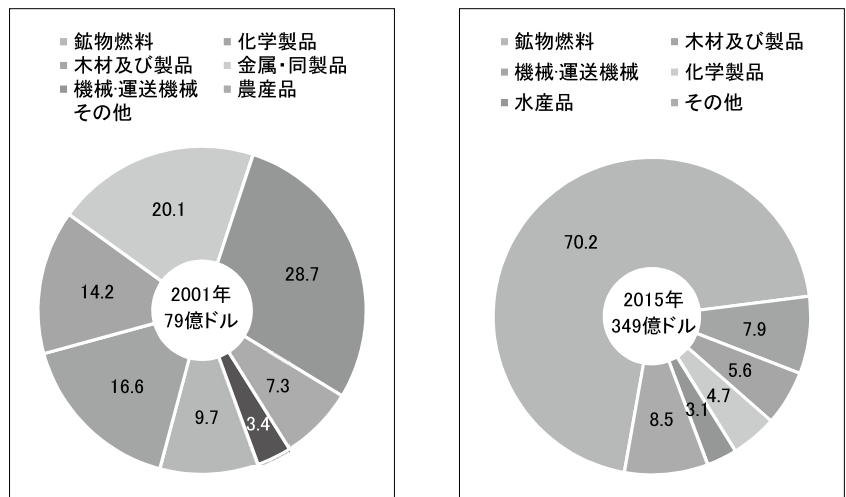
の対ロシア輸入商品は主に鉱物燃料（石油及び石油製品）、木材及び木材製品、機械・運送機械、化学製品などである。その中で、鉱物燃料の比率は70.2%を占め、最も大きく、木材及び木材製品7.9%、機械・運送機械5.6%、化学製品4.7%となっている。これらを比較すると、機械・運送機械の輸入は減少しつつあり、鉱物燃料の輸入が大幅に増加している。

図1 1992 - 2016年の中ロ貿易の推移 (単位: 億ドル)



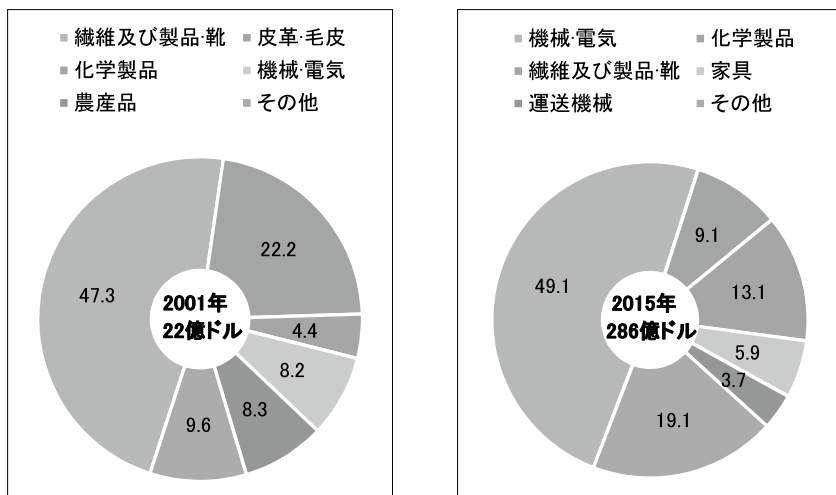
出所: 中国税関総署『中国税関統計年鑑』(1992-2016年版)のデータより筆者作成

図2 中国の対ロシア輸入商品構成の変化 (%)



出所: 中国税関総署『中国税関統計年鑑』(2001、2015年版)のデータより筆者作成

図3 中国の対ロシア輸出商品構成の変化(%)



出所: 中国税関総署『中国税関統計年鑑』(2001、2015年版)のデータより筆者作成

中国の対ロシア輸出をみると、2001年は主に繊維・繊維製品・靴、皮革・毛製品などであった。繊維・繊維製品・靴の比重は47.3%、皮革・毛革製品は22.2%を占めた。これらを合わせると対ロシア輸出の7割を占めた。近年、対ロシア機械設備の輸出が大幅に増加し、2001年の8.2%から2015年の49.1%まで伸びている。一方、繊維及び繊維製品と靴の比重は13.1%までに低下した。

1.3 中口貿易の成長要因

近年、中口貿易急増の要因は少なくとも2つある。一つは中国の対ロシア石油及び石油製品、木材の輸入の増加である。もう一つは中国の対ロシア機械設備の輸出の増加である。

①石油及び石油製品の輸入増加

中国は石油の生産大国であり、同時に消費大国である。経済発展に伴い、石油消費は増えており、1993年に純輸入国となった。2002年には日本を抜いて世界第2位の石油消費国となり、2013年にはアメリカを抜いて第1位となった(于・張、2016)。近年の中国の石油消費量は年間約5億トン、そのうち国産は約2億トン、輸入は約3億トンである。

石油輸入は1990年代半ばから急速に増加した。2004年に1億トン、2009年に2億トン、2014年に3億トンを超え、2015年には3億3000万トンに達した。対外依存度もますます高くなり、2015年には約65%に達した。

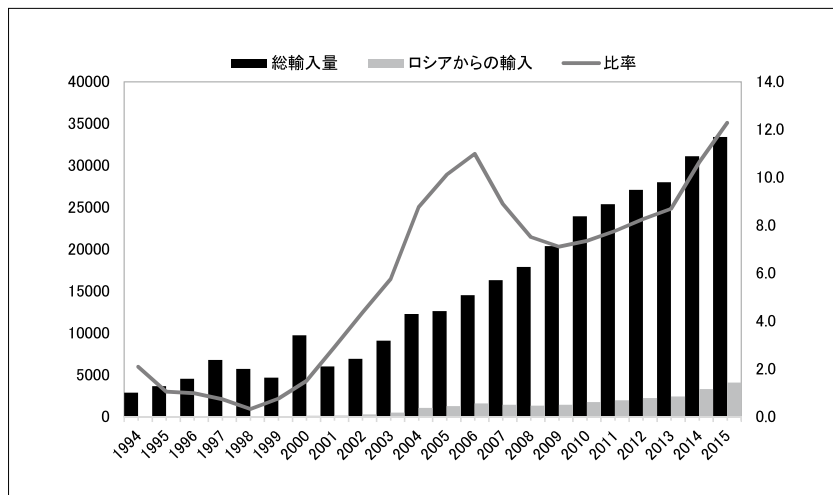
ロシアからの石油輸入をみると、2000年以前は少なく、年間数十万トンしかなかったが、2001年以降、特に2004年から大幅に増加した。2004年に1000万トン、

2012年2000万トン、2014年3000万トン、2015年に4000万トンを超え、4100万トンにまで達した。輸入量の増加に伴い、中国の石油輸入に占めるロシアの割合は大きく増え、その比率は輸入全体の10%強を占めるようになった(図4参照)。

中国の石油輸入先は主に中東地域からであり、約半分を占めている。近年アフリカからの比率が大きく下がり、ベネズエラ、ロシア及び中央アジアの産油国の比率が著しく伸びている。2015年、サウジアラビアは中国の第1位の石油輸入先ではあったが、ロシアは第2位にまで上昇した(図5参照)。

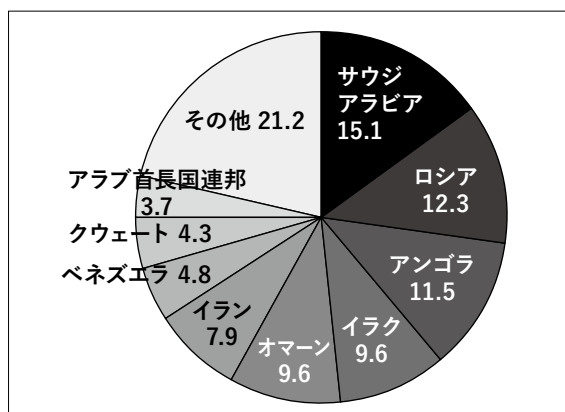
また、中国はロシアから石油製品も輸入している。近年、ロシアからの石油製品の輸入量は年間300万~700万トンである。2015年の石油と石油製品の輸入量を合計すると、4400万~4800万トンに達した。

図4 中国の対ロシア石油輸入の推移(万トン、%)



出所: 中国税関総署『中国税関統計年鑑』(1994-2015年版)のデータより筆者作成

図5 2015年の中国における石油の主要輸入先(%)



出所: 中国税関総署『中国税関統計年鑑』(2015年版)のデータより筆者作成

②木材の輸入増加

木材はロシアからのもう一つの主要な輸入商品である。ロシアの木材資源は非常に豊富で、森林面積は世界森林面積の27%を占め、世界森林蓄積の25%を占めている。

ロシアは、中国にとって最も重要な木材輸入先である。1998年から2007年まで中国のロシア丸太輸入は急増した。1998年まで輸入量は500万m³に満たなかったが、1999年に1000万m³を超えた。その後、年々増加して、2007年がピークとなり、2500万m³に達した。この結果、中国の丸太総輸入に占めるロシア産丸太の比率は、1996年までは十数パーセントであったが、2001年には50%を超え、2007年には68.5%となった。しかし、2008年からロシア政府は丸太輸出を制限したため、丸太

輸出関税が大幅に引き上げられた(封、2009)。その政策の影響で、2009年からロシアの丸太輸出は減少した。近年、中国の対ロシア丸太輸入は年間1000万m³程度である。中国の丸太輸入に占めるロシアの比率は2007年の68%から2015年の23%まで縮小した(図6参照)。

丸太の輸入が減少する一方、挽き材の輸入は増えている。図7をみると、1990年代のロシアからの挽き材輸入はあまり多くなかったが、2007年以降年々増えている。2009年には200万m³、2010年には400万m³、2015年には800万m³を超えた。2007-2015年の8年間で輸入量は150万m³から800万m³まで増加し、年平均増加率は30%となった。輸入量の増加に従い、中国の挽き材輸入におけるロシア材の比率も増えて、2015年には30%に達している。

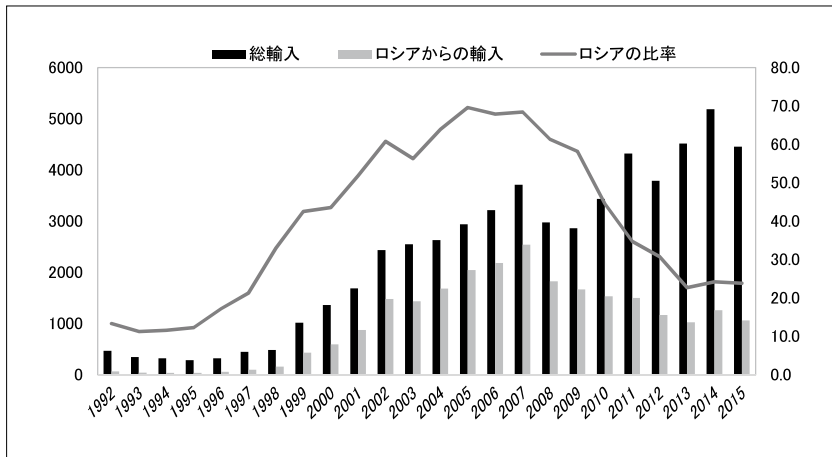
③中国対ロシアの機械設備の輸出増加

ロシアにとって中国は最も重要な貿易相手国である。ロシアの税関統計によると、2010年までドイツがロシアの最大の貿易相手国であったが、2011年からは中国がドイツを上回って最大の貿易相手国となった。その後、ロシアの対外貿易における中国の割合がますます高くなる。ロシアの輸出における中国の比率は2012年6.8%、2015年には8.3%まで上がった。ロシアの輸入において対中国の比率は2012年16.3%、2015年に19.3%に上昇した。

ロシアの輸入において、いくつかの種類の商品で中国が大きな比率を占めている。例えば、機械設備は30.9%、家具・玩具は21.9%、卑金属及びその製品は37.4%、運送設備は56.8%、化学製品は41.7%を占め、ロシアの輸入において1位を占めた。第2位となったのは靴及び傘で15.3%を占めている。第3位となったのはプラスチック及びゴムで7.5%、植物産品が7.7%、光学製品・時計・医療設備が8.9%を占めている。

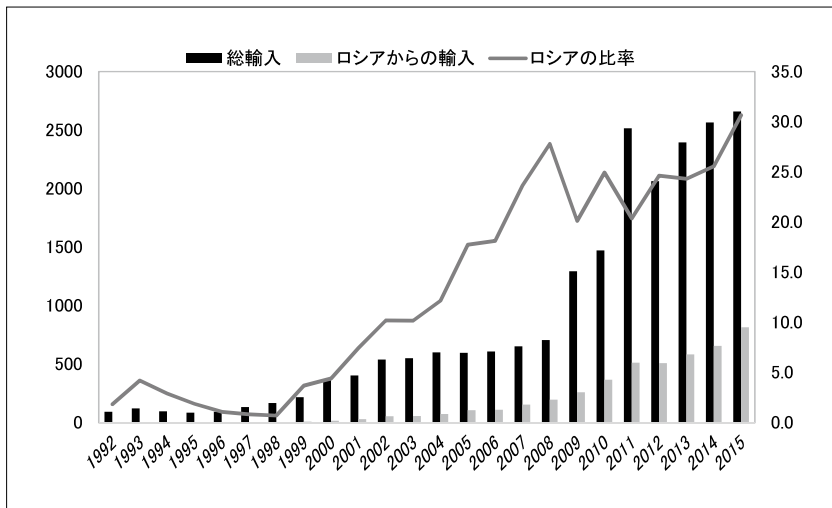
こうした増加傾向には中ロ両国の良好な政治関係も背景にある。現在、中ロ関係は史上最良の時期とあってよい。例えば、近年両国は一連の大きなエネルギープロジェクトと高速鉄道プロジェクト(モスクワ-カザン鉄道)の建設に署名しており、新陸上シルクロードとユーラシア経済連合の連携も進んでいる。また、両国の地方政府も中ロ経済協力を力を入れ、地方間の具体的な経済協力を進めている。

図6 中国の対ロシア丸太輸入の推移(万m³、%)



出所: 中国税関総署『中国税関統計年鑑』(1992-2015年版)のデータより筆者作成

図7 中国の対ロシア挽き材輸入の推移(万m³、%)



出所: 同図6

2. 中国とロシア極東地域の貿易状況

以上中国とロシアの全体的な貿易の進展をみてきたが、中国とロシア国境地域の具体的な経済協力はさらに進んでいる。近年、中国とロシア極東地域の貿易は大幅に増えている。1990年代、極東地域の対中国貿易は10億ドルに満たなかったが、2001年から急速に増加した。2013年になると、対中国の貿易額は100億ドルを超えて110億ドルに達した。その後、ウクライナ危機と経済制裁の影響などで下がって、2015年には63億ドルに縮小し、2010年の水準に戻っている(表2参照)。

表1 2015年ロシアの輸入における中国主要商品の割合(単位:100万ドル、%)

| HS84-85:機械設備 | | | HS94-96:家具、玩具 | | |
|--------------|--------|------|---------------|-------|------|
| | 金額 | 比重 | | 金額 | 比重 |
| 中国 | 17,048 | 30.9 | 中国 | 2,564 | 21.9 |
| ドイツ | 7,133 | 12.9 | ドイツ | 1,282 | 10.9 |
| イタリア | 3,643 | 6.6 | ウクライナ | 1,229 | 10.5 |
| 米国 | 2,850 | 5.2 | カザフスタン | 771 | 6.6 |
| 日本 | 1,801 | 3.3 | ベラルーシ | 527 | 4.5 |

| HS72-83:卑金属及び製品 | | | HS86-89:運送設備 | | |
|-----------------|-------|------|--------------|-------|------|
| | 金額 | 比重 | | 金額 | 比重 |
| 中国 | 3,105 | 37.4 | 中国 | 1,437 | 56.8 |
| トルコ | 613 | 7.4 | イタリア | 251 | 9.9 |
| バングラデシュ | 528 | 6.4 | ベトナム | 216 | 8.5 |
| ベラルーシ | 445 | 5.4 | インドネシア | 91 | 3.6 |
| ウズベキスタン | 361 | 4.4 | トルコ | 58 | 2.3 |

| HS28-38:化学製品 | | | HS64-67:靴、傘 | | |
|--------------|-------|------|-------------|-------|------|
| | 金額 | 比重 | | 金額 | 比重 |
| 中国 | 2,039 | 41.7 | ドイツ | 1,679 | 16.3 |
| ポーランド | 319 | 6.5 | 中国 | 1,583 | 15.3 |
| ベラルーシ | 284 | 5.8 | ベラルーシ | 685 | 6.6 |
| イタリア | 279 | 5.7 | 日本 | 547 | 5.3 |
| ドイツ | 238 | 4.9 | 韓国 | 541 | 5.2 |

| HS39-40:プラスチック、ゴム | | | HS06-14:植物産品 | | |
|-------------------|-------|------|--------------|-------|------|
| | 金額 | 比重 | | 金額 | 比重 |
| ドイツ | 3,868 | 16.4 | 日本 | 3,210 | 18.9 |
| フランス | 2,149 | 9.1 | ドイツ | 3,082 | 18.2 |
| 中国 | 1,759 | 7.5 | 中国 | 1,298 | 7.7 |
| 米国 | 1,654 | 7 | 米国 | 1,246 | 7.4 |
| イタリア | 1,137 | 4.8 | 韓国 | 1,150 | 6.8 |

| HS50-63:紡織製品及び原料 | | | HS90-92:光学製品、時計、医療設備 | | |
|------------------|-------|------|----------------------|-------|------|
| | 金額 | 比重 | | 金額 | 比重 |
| ドイツ | 1,024 | 18.8 | トルコ | 1,206 | 12.2 |
| 米国 | 965 | 17.8 | エクアドル | 1,097 | 11.1 |
| 中国 | 756 | 13.9 | 中国 | 881 | 8.9 |
| スイス | 373 | 6.9 | パラグアイ | 460 | 4.6 |
| 日本 | 303 | 5.6 | ブラジル | 405 | 4.1 |

出所:ロシア税関統計年鑑(2015年版)のデータより筆者作成

表2 極東地域の対中国貿易動向(単位:億ドル、%)

| | 総額 | | ロシア極東の輸出 | | ロシア極東の輸入 | |
|------|-------|------|----------|------|----------|------|
| | 金額 | 比重 | 金額 | 比重 | 金額 | 比重 |
| 2002 | 14.4 | 27.1 | 10.1 | 26.7 | 4.3 | 27.9 |
| 2003 | 20.1 | 34.1 | 15.2 | 36.8 | 4.9 | 27.6 |
| 2004 | 21.5 | 28.1 | 14.9 | 32.3 | 6.6 | 21.7 |
| 2005 | 33.5 | 27.0 | 21.6 | 32.9 | 11.9 | 20.4 |
| 2006 | 42.7 | 26.6 | 12.7 | 28.4 | 30.0 | 24.4 |
| 2007 | 45.2 | 21.3 | 19.8 | 14.7 | 25.4 | 32.8 |
| 2008 | 50.7 | 21.0 | 18.9 | 12.3 | 31.8 | 36.1 |
| 2009 | 43.9 | 28.5 | 23.8 | 22.2 | 20.1 | 43 |
| 2010 | 69.9 | 26.6 | 30.8 | 16.6 | 39.1 | 51.1 |
| 2011 | 81.9 | 24.0 | 39.7 | 15.9 | 42.2 | 46.4 |
| 2012 | 98.2 | 27.2 | 51.5 | 20.0 | 46.7 | 45.5 |
| 2013 | 110.8 | 28.1 | 54.5 | 19.2 | 56.3 | 46.7 |
| 2014 | 101.6 | 25.7 | 54.2 | 19.1 | 47.4 | 44.7 |
| 2015 | 63.8 | 24.2 | 38.8 | 18.8 | 25.0 | 43.9 |

出所:ロシア極東税関サイト(<http://dvtu.customs.ru>、2016年10月11日閲覧)

ロシア極東税関統計によれば、極東地域の最大の貿易相手国は中国であり、2015年の輸出入額は24.2%、輸出額は18.8%、輸入額は43.9%を占めた。輸出の1位は日本、2位は韓国、3位は中国となった。輸入の1位は中国で、2位の韓国と3位の日本を大きく引き離している。

極東の連邦構成主体別の対中国貿易依存度を見ると、輸出はユダヤ自治州が最大で75.1%を占め、アムール州(65.9%)、マガダン州、沿海地方、ハバロフスク地方が続く。輸入はカムチャツカ地方が最大で83.3%、ユダヤ自治州75%となっている。表3をみると、中国と国境を接するアムール州とユダヤ自治州の対中国貿易依存度が高い。ただ、沿海地方とハバロフスク地方のように、中国と国境を接するが、海洋にも面しているところでは、中国の貿易額だけでなく、日本、韓国の貿易額も大きいと見られる。

3. 中国の対ロシア投資

中国は外資受け入れ大国であると同時に、海外への投資大国でもある。近年、中国の海外投資はますます増えている。2016年の中国統計年鑑によると、海外向け非金融分野の直接投資は1180億ドルに達し、近年最高となった。とはいえ、中国の対ロシアの直接投資は他の国と比べて非常に少ない(表4)。また、中ロ双方投資については、主に中国の対ロシアの投資であり、逆にロシアの対中国の投資はあまりない。ロシアの統計データによると、中国の対ロシア直接投資額は2014年がピークで12億ドルに達した。表にはないが、2015年は5.7億ドルに下がり、世界各国からロシアへの直接投資の5.6%を占めている。

表3 2015年のロシア極東連邦構成主体の対中貿易(単位:億ドル、%)

| | 輸出入 | | 輸 出 | | 輸 入 | |
|----------|------|------|------|------|------|------|
| | 金額 | % | 金額 | % | 金額 | % |
| アムール州 | 4.2 | 60.8 | 2.7 | 65.9 | 1.5 | 53.6 |
| ユダヤ州 | 3.1 | 75.6 | 2.8 | 75.1 | 0.3 | 75.0 |
| カムチャッカ地方 | 2.7 | 45.0 | 2.2 | 40.1 | 0.5 | 83.3 |
| マガダン州 | 1.9 | 50.0 | 1.7 | 51.5 | 0.2 | 40.0 |
| 沿海地方 | 33.5 | 46.5 | 13.4 | 49.4 | 20.1 | 46.3 |
| サハ共和国 | 3.4 | 9.4 | 3.2 | 9.0 | 0.2 | 10.5 |
| ハバロフスク地方 | 6.9 | 42.6 | 5.3 | 46.1 | 1.6 | 34.0 |
| サハリン州 | 9.8 | 7.8 | 9.3 | 8.1 | 0.5 | 4.6 |

出所:ロシア極東税関サイト(<http://dvtu.customs.ru>、2016年10月11日閲覧)

表4 ロシアの外資利用(FDI)(単位:100万ドル)

| | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 |
|---------|--------|--------|--------|--------|
| 総 額 | 55,084 | 50,588 | 69,219 | 22,857 |
| キプロス | 12,999 | 1,985 | 8,266 | 5,874 |
| バハマ | 1,829 | 2,111 | 2,791 | 3,764 |
| バージョン諸島 | 7,225 | 2,475 | 9,379 | 2,542 |
| スイス | 741 | 401 | 1,086 | 2,472 |
| フランス | 1,107 | 1,232 | 2,121 | 2,082 |
| 中国 | 126 | 450 | 597 | 1,271 |
| オランダ | 7,383 | 10,330 | 5,716 | 1,239 |

出所:ロシア統計年鑑(2015年版)のデータより筆者作成

上記の統計からみると、中国の対ロシア投資は少ない。しかし、2006年から中国の対ロシア融資、クレジットなどの貸出は少なくない。2006年に中国のCNPCはRosneftへ60億ドルを融資している。Rosneftは2006年から2010年までの5年間で中国に4840万トンの石油を提供している。2009年、ESPOパイプラインから大慶への支線を引くため、中国はRosneftへ150億ドル、Transneftへ100億ドルの融資を提供した。それにより、2011年から2030年にまでの20年間で中国に3億トンの石油が提供される見込みである。2014年、中国のCNPCとロシアのガスプロムは「中ロ東ルート天然ガス取引契約」に調印した。ロシアは2018年より30年間で東ルートを使い中国に天然ガスを供給し、供給量を毎年拡大して、最終的に年間380億立方メートル供給する計画だ。2015年7月にガスパイプライン東ルートの中国国内の区間が正式に着工し、2015年11月、中国はロシアに150億ドルを前払いしている。さらに、2015年には中国の複数の企業・銀行がヤマル半島LNG開発に120億ドルを融資している。

4. 中ロ経済協力の今後の展望

ルーブルの値下げと石油価格の低下などの影響で、2014年以降、中ロ貿易はマイナス成長となっている。しかしながら貿易量をみると、中ロ貿易の発展傾向は継続している。石油の例を挙げると、2015年に中国の対ロシアの石油及び石油製品の輸入量は4800万トン、2014年と比べて900万トン増加した。ロシア税関統計によれば、2016年のロシアの対外貿易は4712億ドル、2015年と比べて11.2%が低下したが、対中国貿易は7.7%増加した。今後も中ロ経済協力はさらに進んでいくだろう。

4.1 貿易と投資の拡大

欧米諸国の経済制裁の緩和と国際石油価格の回復により、ロシア経済は2016年後半からプラス成長となった。それにより中ロ貿易も回復しつつある。ロシア税関統計のデータによると、2017年1月から4月の両国の貿易額は245億ドル、昨年同時期より37%増加した。また近年、中ロ間の電子取引が急速に発展している。2016年、中ロ電子取引額は約25億ドル、2015年と比べて50%増加した。貿易構成をみると、両国間の貿易の相互補完性は非常

に高く、今後その拡大が期待できる。

それに加え、ロシアは東方シフト政策を進め、アジア太平洋地域の国々との協力を力を入れている。2013年12月、プーチン大統領はシベリアと極東の発展が21世紀のロシアの優先的な発展方向であり、この任務は特殊な方式で完成されると指摘した。2014年12月、ロシア政府は先行社会経済発展区法を批准した。また2015年7月、プーチン大統領は「ウラジオストク自由港建設に関する法案」に署名し、2016年7月にウラジオストク自由港が設立された。先行社会経済発展区と自由港では、ロシア連邦構成主体の一部地域に特殊な法律制度を施行する。その目的は国内外の資本誘致、地域経済の速やかな発展を保証すること、良い投資環境を作り上げることである。これらの優遇政策により中国企業の対ロシア投資は増えている。

4.2 エネルギー分野の協力拡大

近年、中ロのエネルギー協力は緊密化している。石油貿易のほか、採掘などの上流部分から製油に至る下流部分でも推進されている。2013年4月、李克強総理がロシアを訪問したとき、エネルギー分野の協力における上流産業と下流産業の一体化、リスク分担、利益を共有するエネルギー協力といった新構想を提案した。プーチン大統領はこの構想に積極的に応じている。2014年、ロシアの経済情勢悪化とエネルギー企業の資金不足などで、ロシア政府は石油・ガスの上流産業分野の外国投資に関する規制を緩和した。それを受け、同年10月に中国石油企業CNPCとロスネフチは戦略的協力の強化に関する協定を締結した。この協定により、両社は上流分野における探鉱開発、下流分野における製油所の建設のほか、石油・天然ガス貿易の一体化の協力を実施することになり、2015年に本格的に開始した。上流部分を担うCNPCはロスネフチ傘下2社の49%の株を買収した。中流部分といえるガスパイプライン東ルートの建設も順調に実施されている。下流部分を担う中国石油企業Sinopecもロシア石油企業Sibur株の20%を取得して、ロシアにおける天然ガス加工・化学事業に参入することになった(郭、2016)。

4.3 新陸上シルクロードとユーラシア 経済連合の連携

2013年、中国は「一帯一路」構想を提起した。「一帯一路」とは陸上シルクロードと21世紀海上シルクロードのことであり、五つの優先目標がある。すなわち「政策協調」、「インフラの連結」、「貿易の円滑化」、「金融統合」、「民間交流」である。他方、2014年5月、ユーラシア経済連合がロシア、ベラルーシ、カザフスタン三国間の関税同盟に基づいて創立された。この地域に商品・サービス・資本・人の自由な移動を促進し、統一した経済政策を推進するためである。その後、2015年5月28日に中ロ両国は中国のシルクロード経済ベ

ル構想とユーラシア経済連合を連携させるとする共同声明を発表した。これにより中ロ両国は国際地域開発に協力し、地域経済統合を強化し、平和と発展を維持することで一致した。これにより中ロ経済協力の深化が期待できる。

4.4 中ロ経済協力の新しい分野に おける科学技術協力

近年、中ロ両国は科学技術、特に先端分野の協力を重視している。今後、共同研究開発やイノベーションにおける協力が両国の優先課題の一つとなるだろう。2015年5月、中ロ両国は戦略的なパートナーシップの強化と共存共栄に関する共

同声明を打ち出した。この声明によりロケットモーター、電子部品、衛星ナビゲーション、地球観測、深宇宙探査などの協力が推進される。また、ワイドボディ航空機、重型ヘリなどの民間航空分野、通信や情報技術の分野についても協力を強化していく見込みである。

現在、ロシア経済は深刻な状況に陥っており、中国経済も構造的な改革が進められている。科学技術分野での協力を進め、貿易構造の改善を進めていくことは、両国の経済発展にとっても重要な意義を持つと思われる。

[中国語原稿を ERINA にて翻訳]

<参考文献>

- 田畑伸一郎「油価低落と制裁下のロシア—2014年マクロ経済実績の分析—」『ロシア NIS 調査月報』、2015年第5月号、pp.1-24。
 封安全「ロシアの木材輸出の新展開—対中国輸出を中心に—」『スラヴ研究』、2009年第56号、pp.179-196。
 于欣・張震「当代石油経済発展分析」『当代論壇』、2016年第19号、pp.22-25。
 郭曉瓊「中ロ経貿合作新進展及未来発展趨勢」『露西亞學刊』、2016年第6号、pp.10-18。
 新浪サイト「ロシア大手石油会社は中国から150億ドルクレジットを得た」(<http://finance.sina.com.cn/world/20151117/172323789025.shtml>、2015年11月20日閲覧)
 中国経済新聞サイト「中国はヤマル LNG プロジェクトに120億ドルを融資する」(<http://www.cet.com.cn/nypd/trq/1633257.shtml>、2015年9月18日閲覧)
 新華サイト「中ロ総理第20回定期会合共同コミュニク」(<http://news.xinhuanet.com/politics>、2015年12月20日閲覧)
 新華サイト「中国シルクロード建設とユーラシア経済連合の接合協力に関する連合声明」(<http://news.xinhuanet.com/2015-05/09/>、2015年9月10日閲覧)